

(様式第4号)

上田市環境審議会 会議概要

1 審議会名	上田市環境審議会
2 日時	令和4年10月11日 午前10時00分から午前11時50分まで
3 会場	市役所本庁舎 2階 会議室 202-203
4 出席者	高橋伸英会長、川田富夫副会長、林健一委員、吉川由紀子委員、瀬上たか子委員、丸山勝也委員、高橋一秋委員、保母裕美委員、下城裕子委員、丸山かず子委員、山野井徹委員
5 市側出席者	山岸生活環境課長、中村生活環境課長補佐兼環境政策担当係長、片上生活環境課長補佐兼環境保全担当係長、母袋生活環境課主任、小宮山生活環境課主事
6 公開・非公開	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	1人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和4年10月31日

協議事項等

1 開会
2 会長あいさつ
3 議事
(1) 第二次上田市環境基本計画における環境指標の中間見直し案について
・資料に沿い、事務局から説明
・以降、協議
(委員) 3点、意見させていただきたい。
1点目は、指標項目Ⅱ-1-01(森林整備面積)及びⅡ-1-03(松くい虫被害木の処理量)について。
今回の見直しの結果、最終目標値は低下するということだが、そもそもそれらの数値は全体の整備すべき面積、又は、市内の森林面積に対して何割ぐらいを占めているのか。指標項目の実施によって、どういった効果が見込まれるのかが見えづらい。全体の目標に対しての実施量というものが示されているとわかりやすい。
2点目は、指標項目Ⅱ-2-01(農業用水路の多自然水路整備箇所)について。
基準値の時からずっと6ヶ所という記載だが単年度に6箇所を整備するという理解でよいのか。
3点目は、指標項目Ⅳ-2-02(里山整備ボランティア)について。
地域住民による里山整備へと活動が移行しており、今回の見直しによって廃止と説明されていたが、自然は絶えず変化しており、整備が必要な状況がいつどこで現れるかはわからない。特に、自然災害などの影響も心配されるため、完全に行政と里山整備の関係がなくなることに不安を覚えた。
地域住民が自発的に整備していくことは望ましいが、高齢化社会の今、次の世代に上手くバトンタッチできないことも考えられる。そういった問題に対処していくためにも、最低年1回程度は行政も関与していくことを検討いただきたい。
(事務局) 2点目の御質問については、毎年6箇所を整備するというのではなく、累計で6箇所整備するという目標である。
3点目については、担当課に確認し、改めて回答させていただきたい。
【後日回答】
日常的な整備を行う活動(里山整備ボランティア)の主体は地域住民へと移行しているが、危険木の伐採や遊歩道整備などは、都市計画課も関わりながら取り組んでいるところ。そのため、指標から外れても関係は継続されることになる。

(委員) 指標項目 I-1-02 から I-1-04 (別所線の輸送人数、上田市街地循環バス・オレンジバス利用者、しなの鉄道市内 4 駅乗降者数) について、地域公共交通計画の策定と併せて検討中とのことだが、この計画は今年度には策定される予定か。その計画で出てくる数値は、審議会の中で確認にすることができるスケジュールなのか。

(事務局) 交通政策課にて今年度中に策定予定と聞いている。数値について、具体的にいつまでに提示できるかは不明であるが、可能な限り早い段階で共有できるように関係課と連携をとっていききたい。

(委員) 承知した。現行の環境基本計画では、令和 4 年度 (中間目標) の数値と最終目標の数値が同じ目標値となっているが、公共交通の利用促進を掲げているかと思うので、目標値を上乗せした数値としていただきたい。

(委員) 指標項目 III-1-02 に新規で事業系生ごみ削減量を指標項目として、設定されているが、目標値の設定根拠は何か。

(事務局) 上田市で策定した「生ごみリサイクル推進プラン」に掲げている目標値である。

(委員) 今回、指標の変更ということだが、施策としての変更はあるのか。

(事務局) 計画の本文にて施策の記載もあるため、そちらの文面も修正し、最終的に示していききたい。

(委員) 指標項目 IV-2-03 (街路樹の植栽延長) について。

基準値、R3 年度実績、最終目標のすべての値が 15.8 km となっているが、街路樹は今後増やしていく予定はないという理解でよいか。

(事務局) 都市計画道路の整備の際に街路樹を植栽することは検討されるが、令和 9 年までに都市計画道路の整備予定がないため、現状維持を目標としている。他方、ポケットパーク等への植樹等については、実施していく方針である。

(委員) 電柱の地中化工事に伴い街路樹が減少している印象がある。基準値 (15.8 km) よりも少なくなっていることはないのか？

(事務局) 実際に街路樹の減少があるのかという事について、改めて担当課に確認したい。

【後日回答】

現在施工中の市役所前については、工事の都合から伐採・除去しているが、施工完了時に植栽を実施予定であり、一時的な減少のため、数値には反映していない。なお、参考に過去の増減については以下のとおりである。

・平成 29 年の植栽延長 (総延長 15.8km→15.9km) : 櫛下泉平線

・令和元年度の植栽減少 (総延長 15.9km→15.8km) : 新参町線の無電柱化 (二中前)

(委員) 環境基本計画の基本方針 4-2 (緑地の保全と緑化の推進) に記載された施策において、「公園・緑地の保全と整備」、「緑化の推進」が掲げられているのに対し、この指標の目標では、緑化はしないという消極的なメッセージに見えてしまう。基本方針 4-2 の指標である「都市公園数」についても同様である。

先ほどのポケットパーク等における緑化は良いアイデアと思うので、何か別の指標を設けられると良いかと思う。

(委員) 一般家庭の可燃ごみ中の生ゴミの割合は大体どのくらいなのか。

(事務局) およそ 40% である。

(委員) 可燃ごみ中の生ゴミの割合やコンポスト化の実施については地域差もあるかと思う。各地域に合わせた事業について、市では検討する予定はあるか。また、事業者ごとに生ゴミの排出量を把握しているのか。

(事務局) 事業系からでる生ゴミの量については、新たに設定予定の指標項目 III-1-02 (事業系生ごみ削減量) の令和 3 年度実績として推計しているが、地域ごと、事業者ごとの把握となると難しいと思われる。

(委員) 過去、近隣住民の生ごみだけを一か所に集めて堆肥化する事業を行っていた記憶があるが、そういったことはできないのか。

(事務局) 過去、塩田地域の方でそうした事業が行われていたと聞いている。
生ごみの堆肥化については、現在、地域の皆様と相談しながら進めている。内容についてお話できる部分があれば、随時、お伝えしていきたい。

(委員) 他の委員からも指摘があったが、実績の数値だけでは分かりづらい。例えば、指標項目Ⅱ-3-2(荒廃農地活用面積)について、そもそも荒廃農地がどのくらいあって、そのうち、どのくらいを活用していく予定なのか。見せ方に工夫をしてもらいたい。

(委員) 全体的な印象として、データの見せ方に対して誠実さが欠けている。
全体像を示さずに、取り組んだ実績のみを数値で見せられても、その実績が全体の何割を占めるのかは見えてこない。

財源が限られている中で取り組んで行かなくてはならないという実状はあると思うが、全体像を示した上で、事業の取組の結果をしっかりとデータで示すことを検討いただきたい。

(事務局) おっしゃるとおりであり、検討していきたい。

(2) 上田市地球温暖化対策地域推進計画における2050年脱炭素(ゼロカーボン)に向けたシナリオ作成に係る考え方について

- ・資料に沿い、事務局から説明
- ・以降、協議

(委員) 脱炭素シナリオについて、「長野県ゼロカーボン戦略策定に係るシナリオ(長野モデル)」と「国立環境研究所モデル(AIMモデル)」について説明いただいたが、どちらが優位というものではないと考える。長野モデルについても、2030年度を中間目標として、緻密に作成されていると思われる。それに沿って、上田地域の特性を活かしたものを強調していくことが望ましいと思われる。

(事務局) 上田市としても、長野県の策定したモデルと方針や施策は近いものになると想定している。他方、長野モデルでは削減量を計算する手段としては、実現性という観点を踏まえた結果、国の方針をベースとしつつ、県の方針を見据えたものを検討している。

(委員) こうした計画を策定していくことは良い。一方で、計画の内容がどのように実施されていくのか、それが今までの計画では見えづらかったので、それらを市民の目に見えるように、分かりやすく示すことを検討いただきたい。

また、こうした計画については生活環境課だけでなく、部局横断的に取り組んでいただきたい。

(事務局) わかりやすく伝える方法については、例えば、主体毎(市民、事業者、行政)にどういったことに取り組んで行けば良いのかなど、皆様の意見を聞きながら、検討を進めていきたい。

また、部局横断的な取組については大きな課題と考えており、今年の4月に、「上田市ゼロカーボンシティ推進本部」という部局横断的な検討組織を設置したことで、一つのテーマに部署を超えて検討するような場面もできています。

(委員) 長野県のモデルでは、中間目標の2030年に向けて力を入れて取り組んでいると感じられる。今回の提案については、2050年の目標を重点にしているように感じられるが、まずは2030年の中間目標に対して注力していただきたいと思うがいかがか。

(事務局) おっしゃるとおり、まずは2030年度までの目標について定め、その達成に向けて進めて行くべき政策を検討していきたいと考えている。

(委員) 計画で定められた目標について、上田市民が具体的にどのように取り組んだらよいのか、計画の当初から示していく必要があるのではないかと。例えば、家庭に関しては、現状で省エネが出来る項目がこれだけあって、それらを切り替えればこうなるよ、といったように。また、事業者に対しても具体的にどういった温暖化対策に取り組んでいけるのかといったことについて、一緒に考えることを呼びかけていくことも必要と思われる。

(委員) 長野モデルと AIM モデルでは、例えば、LED が普及したことによる最終エネルギー消費量の削減量を推算する際の計算式が異なっているのか。

(事務局) 基本的には、最終エネルギー消費量の削減量を推算する際の計算式について大きな違いはない。他方、AIM モデルの方が後から出てきたモデルであるため、今後の社会変容に伴う影響や推算するための前提について優位であると考えている。

(委員) そうであると、上田市のモデルを作成する際には、上田市の現況と将来の変容を踏まえて微調整が必要という理解でよいのか。

(事務局) 御認識のとおりである。

(委員) これから試算をしていく中で、例えば、2030 年までの削減量がなだらかであった場合、その後の 2050 年までの削減量を大きくしなくてはならないが、そうした場合に対して、どのように対応していくのか。

(事務局) 実際に計算しなくては分からない部分も多いが、AIM モデルにおける国の CO₂ 排出特性と上田市の CO₂ 排出特性には違いがあるので、そういった部分の違いから差が出るのが想定される。

(委員) その差を埋めるためには、地域の努力要素として、例えば上田市の地域特性を活かして強化していく取組を検討するという事で良いか。

(事務局) 上田市は晴天率が高い地域であるので、太陽光発電システムの発電量については、優位な地域である。そうした特性を踏まえて、例えば、建物への太陽光発電システムの設置を推進する等の取組を実施していくことが想定される。

(委員) いずれにせよ、最終的には「上田モデル」としてシナリオを作っていってもらいたい。国が示した今後の社会変容の見通しを、果たしてそのまま前提条件として組み込んでよいのかは議論が必要かと思う。まだ試験段階の技術については、それが社会に実装されなかったとしても、どこまで削減できるのかを考え、その先の削減が足りない部分については、それこそ上田市の特性を踏まえて、市民、民間、行政が協力しないと達成できないんだというような計画にしてもらいたい。

(3) 上田市地球温暖化対策地域推進計画の改定スケジュール (案) について

- ・資料に沿い、事務局から説明
- ・以降、協議

(委員) パブリックコメントの実施の他に各地域で説明会を実施する予定はあるか。

(事務局) 現時点、説明会の実施は想定していないが、パブリックコメントとは別にアンケート調査を実施し、市民の声・考えを反映していく予定である。

(委員) 個人的にはパブリックコメントに供する素案の説明会を開催したいと考えている。その際に、市の担当も参加し、直接話していただけるとありがたい。